

政務活動報告書

令和 7 年 8 月 1 8 日

〔会派名：清風クラブ〕

代表者氏名	常俊朋子	記録者氏名	小林 勝
視察者氏名	福田博行、常俊朋子、坂本直司、小林勝		
視 察 日	令和 7 年 7 月 30 日（水）		
視 察 先	高知県南国市		
目 的	人口減少対策と移住施策について		

視察概要

三重県名張市においても人口減少対策と移住施策「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を実施しているが、同様に同政策を進めて一定成果を出している南国市の現状を視察した。

昭和から平成のバブル期に高知市郊外の南国市の比較的安価な土地が開発され、平成 17 年には人口が 5 万人を超えたが、その後減り続け、優良な宅地と働く場所が必要だとの事で平成 27 年 9 月に「南国市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しました。

第 1 期については正直「国の方針と補助の活用」がメインだったが、少子高齢化と人口減少に歯止めをかけるため令和 2 年度から令和 6 年度を計画期間とする「第二期南国市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定。自然減が大きいので、全体としては減少気味ではあるが、令和 6 年度は 164 人の社会増があり、人口減少を緩やかなものになっている。

上記の後段のとおり、空き家の利活用や観光戦略などの効果もあり、人口は社会増の傾向が続いているが、相変わらず自然減の多さもあり、人口の増加を見込む事が困難だとの事。

朝ドラ効果などもあり、注目は少しずつされるようになってきたが、受け入れるインフラの整備が追いついておらず、高知市で宿泊し観光するパターンが尚目立つと感じている。
南国市で消費活動をして頂く努力と、市街化調整区域の規制緩和などを通じた良質な宅地の確保も急がれるとの事。

自然減を超える社会増を目指し、企業誘致や駅前を中心とした市街地の宅地開発をしたりしている。また SNS を活用した移住促進の PR をしているが、近年デジタルマーケティングを実施し、その効果が出てきている。

南国市も合併をしていない市であり、名張市と境遇が似ている。予算が限られる中、国や県からの予算確保の中で様々な施策を食欲に進める中で、名張市でもすすめる「まち・ひと・しごと総合戦略」に取り組んだようだ。高知市から鉄道や車で 30 分から 1 時間の好立地を活かし移住を促進したいが、名張市のような良質な宅地が少なく都市計画の見直しなどしながら宅地の確保に努めるが効果は限定的で大幅な増は見込めてはいない。だが様々小さい施策を積み重ねることで令和 6 年度は観光施策などの効果もあり僅かに社会増を達成している。名張市も好条件ばかりではないものの南国市のように努力を続けることで打開できる事がある。また興味のある人に直接リーチできる、メタ広告やグーグル広告などを利用したデジタルマーケティングの活用も有効だと感じた。



政務活動報告書

令和7年8月18日

〔会派名：清風クラブ〕

代表者氏名	常俊朋子	記録者氏名	小林 勝
視察者氏名	福田博行、常俊朋子、坂本直司、小林勝		
視 察 日	令和7年7月31日（木）		
視 察 先	徳島県阿南市		
目 的	野球のまち阿南を視察し、ホッケーのまち なばりを宣言し交流人口増進をはかる本市の施策の参考にする。		

視察概要

名張市は「ホッケーのまち なばり」を宣言し、関係人口と交流人口の増進に努めているが、平成17年から「野球のまち」で関係人口と交流人口を増やしている阿南市の先進事例を視察した。

阿南市では元々観光資源がLED以外何もない中、当時の市長が平成17年に長野県上田市にてスポーツの大会があり、たくさんの人が集まるのを目の当たりして決断。当時市内に野球のチームが90チームあることに目をつけ「野球のまち」を宣言する。

その後、少年野球の全国大会や500歳野球大会など様々な大会を開催することで交流人口が爆上がりし、宿泊施設も1300人に対応出来るようになるまでに発展した。むつみスタジアムを新設し様々な野球の大会を開催するようになる。更に四国八十八ヶ所巡りに1つ足して89番目として89寺（野球寺）を設置し、ニッチな需要を食欲に取りに行くような施策も実施。モンゴルとの交流など海外との交流も増やしている。

野球推進室をテレビ番組（アタック25など）で取り上げられると「野球のまち」そのものが観光として注目されるようになる。

今後も「野球のまち」として、よりニッチな部分にも着目し、プロ野球などの誘致も視野に様々な野球観光を推進したいとのこと。まだまだ知る人ぞ知る阿南市だが、ある一定の層だけでなくたくさんの人に野球のまち阿南を知ってもらえるように活動を続けて行きたいとの事だった。

阿南市は「野球のまち」と言う前に「おもてなしのまち」と言うキャッチフレーズもあるとの事だが、まちの中の飲食店の店員の人々、タクシーの運転手さん、市役所の職員の皆様、宿泊施設の人の対応など、阿南市で会う人が揃って、気さくでおもてなしの精神に溢れていた。

野球をきっかけとして阿南市に訪れた人が、野球だけでなく阿南市内で出会う町の人々の笑顔に感動して「また行きたい」と感じるのだと思う。

観光事業はキッカケであり、訪れた人の心を動かすのは「そこで会う人との会話や表情」なんだと気付かされた。

名張市には「赤目以外何もない」と嘆く人もいるが、阿南市のように何もないところから観光資源を作り出している市町もある。観光施策は積極的に作りだすことが大切だと感じた。

